

地域交流の場に

四日市市の子ども食堂

無料、または低価格で子どもに食事を提供する子ども食堂。

2012年に東京でスタートした支援の輪ですが、年を重ねることで課題も見えているのが現状です。飲食店、地域団体など独自の視点で活動している四日市市の子ども食堂を取り上げます。

四日市子ども食堂55

開催日 毎月第2・4水曜日 場所 四日市市富洲原町2-40イオンモール四日市北 レンガ棟前 ☎ 059-361-6065(55カフェ)



市内初の子ども食堂 ひとり親支援に注力

2016年6月、四日市市で最初の子ども食堂として始まった四日市市子ども食堂55。開催場所である55カフェのオーナーである山田知美さん自身もシングルマザーであり、働きながら長男の子育てと向き合います。「起業してカフェをオープンさせたもののやはり長男が家で留守番する時間が長くなる。ひとり親同士が集まり、子どもの孤食を減らしたいと始めました」。

現在はすでに会員つた

ひとり親の家族を継続的に招き、クローズドの形で続けます。「子ども食堂と聞けばすぐに貧困などと連想しがち。地域交流の場として活動を続ければいい」。提供する食事は、「我が家の一ヶ月メニュー」と思ってもらえるメニューである。市外からの転入者を孤立させない存在として、これからも活動を続けて、これからも活動を続けます。



山田知美さん
四日市子ども食堂55
オーナー

コミュニティハウス和っは みんなで食堂

開催日 每月第2金曜日 場所 四日市市下海老町4187-3 時間 18:30~20:30
☎ 059-324-7070 費用 子ども100円、大人400円



調理して食べる! 目標は地域で子育て

子育て支援活動などを行うNPO法人あつたかコミュニRみえ。今年6月から始めた子ども食堂は多世代交流を通して、子どもを地域みんなで育みたいとの思いから。「子ども食堂と名付けています」と社会福祉士・相談員の尾山茉理さん。

特徴は参加した子どもたちも調理に加わること。

作る、食べる楽しさを伝えようと考えます。料理には無農薬野菜がたっぷりで一番人気はコロッケ。総菜ひとつにしても、手作りにこだわります。同法人では企業などと連携しながら、フードパンタリー事業「みんなでパンタリー和っは」にも取り組むなど地域課題の解決に向き合っています。

子ども食堂 嘉喜家

開催日時 不定期 ※現在、参加家族からの紹介制で運営 場所 四日市市三栄町4-10 吉村ビル1F ☎ 059-337-8835



訪れる子どもを包む 心を込めたおもてなし

三重のアンテナレストランであり、和牛料理に定評のある嘉喜家。子ども食堂を始めたのは今年2月から。「参加者に次への参加者を紹介してもらう、リレー形式で進めています」と女将の赤塚直子さん。心遣いも高級店のもの。当店は女将が、丁寧な挨拶で家族を迎えてれます。事前紹介制のため、来店する子どもたちの趣味、好きなものをスタッフ全員で事前に共有。会話の糸口を得ておこうことで、スタッフは空

ぱくぱく、すくすく、まっすぐに!

開催日 11月27日、12月4日、11日、18日など 場所 サンショウマルシェ四日市店(四日市市鷺森1-12-13) 時間 11:00~16:00(※) ☎ 059-345-0690(三昌物産株式会社) 費用 無料

※時間内でも無くなり次第終了



子どもの成長を願つて すぐすぐ、まっすぐに

毎年クリスマスには養護施設などへクリスマスレッグを寄贈。三重大学水産学部に企業奨学金を設置するなど三昌物産は地域貢献に力を入れてきました。同社は市が行う「新型コロナ・子ども緊急支援プロジェクト」に応募。見事に採用され、1回目の子ども食堂を11月6日に行いました。対象は小学生で、用意した弁当とお茶を持ち帰って頂きます」と三昌物産の渡辺弘毅さん。弁当には、同社の飲食店で人気の鶏



三昌物産株式会社
商品開発・招福亭担当 部長
渡辺弘毅さん

食育、子ども食堂あした葉

開催日 每月第2・4土曜日 場所 四日市市東富田町9-3 時間 11:00~
☎ 090-8325-8816(要事前予約) 費用 子ども無料、大人300円



世代間交流の場所 食と感謝を学んで

コミュニティカフェあした葉では、10月から子ども食堂をスタートしています。店主の伊世利子さんは長く看護師として医療界に従事。在宅看護では、塩ソムリエが参加しての塩むすびおにぎり作り、2回目にはパン作りにチャレンジしました。「寺の副住職が来てくださいました。『寺の副住職が来てくださいました』と伊世利子さん

「ありがとうございます」「こちらこそおもてなしをさせていただきます」と考えています。味わう計画も考案中(毎回定員20人、要事前予約)。ただ食べるだけでなく、命の大切さを伝えながら開かれている子ども食堂。子どもたちのひとつの学びの場としての役割も担います。

毎回100食を用意 差別のない地域へ

2016年から子ども食堂を開始。四日市羽津医療センターの支援を受けることで、毎回100食を用意するかなり大規模な子ども食堂です。利用者で多いのは羽津小学校、羽津北小学校の子どもたち。羽津地区まちづくり推進協議会の内田寛会長は「金曜日の夕方に開催しているため、学校帰りの小学生が立ち寄ってくれます。子どもが多いですが、これからはぜひ母親にも来てもらえた

ことがあります」と伊世利子さん。

羽津子供食堂“&ゆう”

開催日 每月第2・4金曜日 場所 四日市市大宮町14-9(サロンde志氏我野) 時間 17:30~
☎ 059-331-5333(羽津地区まちづくり推進協議会) 費用 子ども無料、大人300円~(※)



「ありがとうございます」「こちらこそおもてなしをさせていただきます」と考えています。味わう計画も考案中(毎回定員20人、要事前予約)。ただ食べるだけでなく、命の大切さを伝えながら開かれている子ども食堂。子どもたちのひとつの学びの場としての役割も担います。

以前は、みんなでワイヤードと食べる光景が見られ、高校生ボランティアだけで10数人が協力。さらにエフが調理を担当。カレーライスが定番ですが、味には絶対の自信があります。「障害がある者は健常者も関係ない。差別のない地域にしていきたら」と内田さん。次々回となる12月第2金曜日はクリスマスイブ。ケーキも用意!

羽津子供食堂“&ゆう”
オーナー 内田 寛さん

内田 寛さん